

4月16日(水)、17日(木)に3年生対象の「全国学力・学習状況調査」、5月22日(木)、23日(金)1、2年生を対象の「福岡県学力調査」が行われました。本年度は、「全国学力・学習状況調査」の理科において、(※)IRT調査が行われました。各調査の結果および今後の学習指導の手立てについてお知らせいたします。なお、学力調査の結果は、学力の特定の一部であり、学校の教育活動の一側面であるとされています。

※IRTとは、国際的な学力調査(PISA、TIMSSなど)や英語資格・検定試験(TOEIC・TOEFLなど)で採用されているテスト理論です。この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし(尺度)で比較できます。

全国学力・学習状況調査 (3年生対象) 結果

① 学力調査平均正答率

本校の3年生の国語、数学の平均正答率は、全国平均をやや上回っています。

本校の3年生の理科のIRTスコアは、全国平均を上回っています。

② 学習状況調査

『家庭学習の充実』

・平日の家庭学習時間が1時間以上の生徒の割合…全国・県より下回っています。

→自学ノートやレポートでの予習・復習の取組を行ったり、試験前の計画表で学習の見通しを持たせる手立てを打ったりしていますが、まだ家庭学習の習慣が身に付いていません。予習・復習を促す授業での仕掛けづくりや、自学ノートなどを活用した復習の徹底に取り組んでいきます。

③ 各教科の分析と方策

【成果】

国語、数学、理科ともに、記述式の問題に対する正答率が、県平均、全国平均をやや上回っていました。本校では、レポートやポスターによる単元の振り返りや、授業でのタブレットを用いた表現活動など、自分の意見を表現する活動に全教科を通して積極的に取り組んでおり、その成果のひとつと考えられます。

【課題と方策】

<国語>

【知識・技能】を評価する問題に課題がみられました。文中に出てくる言葉に対する同音異義の熟語を選択する問題が出題されました。文脈に沿った熟語を選択するため、読解力や熟語の意味を理解しておく必要がありました。今後は、漢字を単に書きとって記憶するだけでなく、文脈を意識した漢字の選択やそのための漢字の意味の理解にも注力していきます。

<数学>

【図形分野】問題に課題がみられました。三角形の外角の角度を求める問題が出題されました。いつもとは異なる角の角度の情報が与えられていることに戸惑い、答えを導出できなかった生徒が多く見られました。今後は、出題パターンを固定せず、情報を取捨選択して、目的の解を導き出す活動を取り入れていきます。

<理科>

【知識・技能】を評価する問題に課題がみられました。塩素の元素記号を答える問題が出題されました。思考力・判断力・表現力の育成に特に力を入れて授業を行っていますが、今後は、基本的な知識の獲得もおろそかにしないよう生徒に伝えていきます。

県学力調査（1年生、2年生対象）結果

【平均正答率】

本校の2年生の国語、数学、英語は、県平均をやや上回っています。

本校の1年生の国語は、県平均を大きく上回っています。

本校の1年生の数学は、県平均をやや上回っています。

今後の学力向上の方策について（全教科を通して）

これまで学力向上の方策として、以下の3点について取り組んできました。

- ❶ 生徒間で互いの理解を高めるために、各教科における教え合い活動の実施
- ❷ 情報を関連付けて思考を促すために、複数の情報（文章、表、図、グラフなど）を目的に応じて整理する場の設定
- ❸ 基礎基本の定着のために、反復学習の実施

これらの方策を通して、今年度の3年生（全国学力学習状況調査）の総合点数は全国平均をやや上回り、1・2年生（県学力調査）の総合点数も県平均をやや上回る結果となりました。今後は、上記の3点の取組を継続しながら、改善を行っていきます。また、更なる学力向上を目指し、次の3点について授業改善に取り組み、基礎学力の定着と課題解決学習を通して主体的に学習に取り組む生徒を育成していきます。

- ① 基礎学力を定着させるために、自学ノート等を活用した日々の復習の実施
- ② 課題を解決するために、他者と協働して学び合う学習の場面の設定
- ③ 単元を通して『主体的・対話的で深い学び』につながる課題解決型学習を行い、生徒がものごとを自分事としてとらえ、より深く思考する場面の設定